

# 二枚貝のからだ

二枚貝は水中のプランクトンや有機物などを効率よく食べられるように  
進化してきました

二枚貝の仲間は、二枚の貝殻で体の左右を包んでいる構造をしています。砂や泥の中に潜っているもの、岩などの表面にくっいているもの、岩などに穴をあけて住んでいるものなど、種類によって生活スタイルは様々です。

ほとんどの二枚貝は、殻の間から管を出して水を吸い、水の中に含まれるプランクトンや有機物をこしとって食べています。餌はえらでこしとっているので、二枚貝のえらは大きく発達しています。二枚貝のなかには、効率よく水を吸うため、外套膜(体をおおっている膜)が水管と入水管をつくり、水の流れが一方通行になるような構造をもつものもいます。

二枚貝の仲間は、餌をおいかけて捕えることがないので、活発に動くものはほとんどいません。しかし、ホタテガイの仲間はヒトデなどに襲われた時に泳いで逃げます。殻をいきおいよく閉じ、水を噴き出すことで、ジェット噴射のように泳ぐのです。

## 二枚貝の仲間



ヒオウギ



ムラサキガイ



ショウジョウガイ



シュモクガイ



ケマンガイ

## 二枚貝の構造

